

ナシ黒星病情報第1号

令和6年5月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ナシの黒星病の発生はやや多い状況です。 ほ場での発生状況に注意しましょう。

1 発生状況

4月下旬に行った巡回調査（県内28ほ場調査）において、ナシ黒星病の**発病圃場率は10.7%（平年5.1%、前年3.6%）**で、**過去10年で最も高く、発病葉率は0.25%（平年0.13%、前年0.04%）**で、**過去10年で2番目に高い状況**です。

4月25日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると向こう1か月の降水量は平年並ですが、本病は曇雨天が続くとまん延し、発生量が増える可能性があります。

2 防除対策

- 発病した葉や果実は伝染源になるため、見つけ次第取り除き、ほ場外へ持ち出し適切に処分しましょう。
- 下表を参考に防除しましょう。FRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避けましょう。
- スピードスプレーヤーで防除する場合は、ほ場のすみなど薬剤がかかりにくいところは手で散布するなどして、かけ残しがないように注意しましょう。また、散布圧力を高くしすぎないように注意しましょう。

表 ナシ黒星病に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分	使用時期	本剤の使用回数	FRACコード
チオノックフロアブル	チウラム	収穫30日前まで	5回以内	M3
スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール	収穫14日前まで	3回以内	3
ベルコートフロアブル	イミノクタジンアルベシル酸塩	収穫14日前まで	5回以内	M7
ネクスターフロアブル	イソピラザム	収穫前日まで	3回以内	7

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2023.pdfを参照する。

農薬の散布にあたっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。